

5. Br J Ophthalmol. 2022 Nov;106(11):1538-1541.

**Implications of COVID-19 infection on patients with uveitis under biologic treatment**

Abdulrahman F AlBloushi, Abdullah M Alfawaz, Ahmed M Abu El Asra.

PMID: 33931386

PMCID: PMC8098233

DOI: 10.1136/bjophthalmol-2020-318577

本論文は生物学的製剤による治療をされているぶどう膜炎患者における COVID-19 感染の発症率、重症度、転機を報告しています。現在のエビデンスでは糖尿病や慢性肺疾患といった既往歴をもつ高齢の方は死亡率が高いことが知られています。生物学的製剤による治療では免疫が抑制されるため、COVID-19 に感染し易いのではないかと、重症化してしまうのではないかと不安を感じる方も少なくありません。本報告は単一施設における 5 か月間の間に生物学的製剤の治療を受けられている方の中で COVID-19 感染検査を受けたぶどう膜炎患者を対象にしています。最も多い疾患はベーチェット病であり、用いられていた生物学的製剤はインフリキシマブが 60%程度でした。15.3%で COVID-19 陽性と判定されたましたが、陽性者の中に COVID-19 に関連する症状を発症した症例はみられておりませんでした。このことは生物学的製剤の使用は COVID-19 による症状を抑制し、保護的な作用をきたすことが推測されますが、一方で生物学的製剤使用者は COVID-19 のサイレントキャリアになり得ることが考えられました。本報告は生物学的製剤を今後も必要とされる方に対して、COVID-19 への生物学的製剤の影響を説明しやすくしてくれる重要な報告です。

(文責：東京医科大学 坪田 欣也)